

●発行日：2019年8月24日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

||||| 発行:教材出版 学林舎



2019年 学習の行き先 科目学習する意味を考える —算数編—

算数と社会とのつながりを考えると、とても密接に結びついています。しかし、子どもたちは、なぜ算数の勉強が必要なのか理解できず、根本的な位置づけ、目的意識がないまま学習が進んでいるように感じます。算数は他の教科に比べると、嫌いになってしまう子どもが多く、一度できなくなると、そこから何年間も苦しい思いをすることがあるように感じます。

算数は1つの教科として、学ぶ理由があるからこそ学んでいます。今回は、なぜ算数を勉強するのかについて、いくつかの例を挙げて考えていきたいと思います。

○かけ算—学ぶ理由を考える

かけ算は、小学2年生で初めて学習します。たし算・ひき算・かけ算・わり算の4つの計算方法にはそれぞれに意味があり、どのようなときに利用できるのかを算数ではひとつひとつ学びます。

「箱にあめが4個ずつ入っています。この箱が5箱あると、あめは全部で何個あるでしょう。」

このような問題では、たし算しか知らない子どもたちは、 $4+4+4+4+4=20$ と一所懸命に計算するでしょう。しかし、「同じ数がいくつもあるときはかけ算を使えばよい」と習うと、 $4 \times 5 = 20$ と計算できるようになります。このように、たし算ではわずらわしかった計算でも、かけ算を使うことによって簡単に求めたり、より大きい数まで計算を進めたりできるようになります。

○面積—学ぶ理由を考える

算数において面積というと、正方形や長方形、三角形などの公式をただ単に暗記するイメージがありますが、面積を求めることを学ぶと、数値化して判断する力が養われ、日常生活に生かすことができます。

例えば、キャンプに訪れて、テントを張る場所について隣の人と揉めたとしましょう。そこでけんかするのではなく、土地の面積を求めて均等に分けられたら、お互いが納得できそうですね。このように**見た目ではわからないものでも、数値化することで広さの違いがはっきりわかります。**

○割合を使った比べ方—学ぶ理由を考える

割合を学ぶことで、あることがらを、さまざまな視点から多角的にみることができます。

例えば、A 遊園地と B 遊園地の土曜日と日曜日の入園者数について調べたとします。A 遊園地では、土曜日は 500 人で日曜日は 700 人でした。一方、B 遊園地では土曜日は 1000 人で日曜日は 1200 人でした。どちらも日曜日の方が土曜日よりも 200 人多く入園しましたが、同じだけ増えたと言ってよいでしょうか。

日曜日の入園者数が土曜日の入園者数よりも何倍増えたかを考えると、A 遊園地は 1.4 倍(140%)なのに対して、B 遊園地は 1.2 倍(120%)です。「日曜日の方が土曜日よりも何倍増えたか」を考えると、入園者数は少ないですが、A 遊園地の方が増え方が大きいことがわかります。

このように、差を使って比べることもできますし、割合（何倍か）を使って比べることもできます。どちらが間違っているということではなく、どちらを使う方がより便利か、わかりやすいかで使い分けています。社会では、割合を使って比べられることが多くあります。割合は、もとにする量が違っていても、同じように比べることができるからです。

もちろん算数はできなくても生きていけます。しかし、この3つの例のように、算数を身に付けることで、楽に計算できるようになったり、数値化して判断できるようになったり、物事を多角的にみることができるようになったりと、生活を豊かにしてくれます。

算数は世界中の人たちが知っています。人によって感じ方が違うこともありますが、算数を使うことで、みんなが同じ基準で客観的にものごとをとらえることができます。

だからこそ、自分自身のためにも、これからの社会をよくしていくためにも、算数を学び、身に付ける必要があるのです。

(文 / 学林舎編集部)

2019年 教育の行き先

できない、わからないという マインドを親はどう超えるか

「どうせやってもできない」「勉強なんてやっても無駄」……勉強に対するネガティブな発言を耳にしたことはありませんか？ 日々の勉強に疲れた子どもであれば、一度や二度、口にすることがあるような言葉ですが、子どもたちのそばにいる大人は、このような発言が飛び出してきたときに言下に注意するのではなく、**ネガティブな発言に至った原因を考えてあげることが大切**です。なぜなら、このような発言は、「わからない」という小さなつまずきが積み重なってしまった結果であることが多いからです。

榎本弘明氏や阿部謹也氏が指摘しているように、「世間」という枠組みをもつ日本人は、**社会生活のなかで他者の目(評価)を過剰に意識する**といわれており、このことは多くの人がうなずけるのではないのでしょうか。他者の目を意識するということは、学校という教育現場でも例外ではありません。子どもたちは、学びの場面において、先生やクラスの友だちの目にさらされることとなります。人間関係において「先生や友だちは自分のことをどのように評価しているだろうか」という不安のなかにあるとき、もし、自分だけが授業の内容を理解できずについていけなくなったとしたら、どうで

しょうか。友だちの目を気にするあまり、わからないことが恥ずかしくて先生に質問できないという子どもがあらわれても、何ら不思議ではありません。このように考えてくると、勉強に向き合えなくなった経緯を踏まえることなくやみくもに注意しても、逆効果であるのは想像に難くありません。

そもそも「どうせやってもできない」という発言は、過去に取り組んで失敗した経験があるからこそのものであり、「勉強なんてやっても無駄」だと何のきっかけもなく考える子どもは少ないのです。

集団教育は、自分とは異なる他者の存在を認め、尊重することを学ぶ場であると同時に、子どもが自分を他者と比較するなかで成長する場となります。そのため、集団で学ぶことのメリットは、自分が属する集団のなかに見つけたライバルに負けぬように努力するという状況が生まれやすいことですが、一方で、競争のなかで生じるストレスにさらされやすいというデメリットもあります。子どもたちの置かれたこのような状況を考えると、周りの大人が子どもたちと向き合うときの態度が見えてきます。

まずは、子どもの発言を受け止め、認めてあげましょう。子どもにとって、親は甘える対象であって先生ではありません。自分の一部のような存在です。反抗的な態度をとることもあるかもしれませんが、ここで叱ってしまつては事態は好転しません。粘り強く、子どもの言葉が出てくるのを待つことが大切です。親は我が子の勉強を教えることに不向きであると言われることがありますが、それは、親は他の子と比較することなく我が子のみを対象としてしまうために我慢がきかず、すぐに感情的になりやすいからです。

そして、勉強に対して投げやりになってしまった原因を子どもの口から言わせるようにしましょう。このとき、子どもの発言を大人が奪ってはいけません。**必ず本人に言わせることで、問題に対する自覚をもたせま**しょう。子どもの抱えている問題がわかったら、解決に向けて何をしていくべきかを本人と話し合ひましょ。単純に特定の問題がわからずにつまずいているのであれば、一緒に考えてみてもよいでしょう。

(文 / 学林舎編集部)



2019年 教育の行き先 進路の道を考える

これから、受験するにあたって、自分自身で志望している学校はありますか。志望の学校があるなら、なぜその学校を志望しているのでしょうか。入りたい部があるから？制服がかわいいから？あこがれている先輩と同じ学校に通いたいから？プールやピアノなどの設備が整っているから？

志望の理由は人それぞれ違いますが、中学校、高校、大学と、これから生きていくなかで、学校を選ぶ機会が何度もあるでしょう。そのときは少し立ち止まり、どの学校を選ぶのかをじっくりと考えてみましょう。学校を選んだ理由がはっきりしていると、充実した学校生活を送ることができます。

学校の雰囲気を見て

志望する学校があるならば、その学校を見学に行きましょう。見学に行く前に、見てみたいところ、自分が重視しているところや知りたいところを事前にメモしていくと、しっかり確認できます。実際に見学に行くと、通学している先輩から話を聞くことができる場合もありますし、自分がその学校で生活することを想像しやすくなります。その結果、通学したいと思うことができれば、その学校を志望する学校に決定できます。しかし、パンフレットやインターネットで見たものとは印象が違ったり、想像とは違うと思ったりする場合があります。自分が思っていたものと違い、もやもやが解消できない場合は、思い切って志望校を変えることも必要です。

自分の将来を考えて

また、志望する学校を選ぶにあたっては、少し先のことまで考える必要があります。今後、どのような自分になりたいか、どのような将来にしたいかです。すでに、つきたい職業や気になる職業があれば、その職業についている人が卒業した学校に行くことが、その職業につく近道になる可能性があります。職業によっては、学習しておく必要がある科目もあります。学習しておく

べきことをインターネットや本で調べて、その科目を学べる学校を志望することも将来につながるのだと思います。

今の時点で、将来のことを思いつかない場合は、あせらずに気になる学校を見学に行って、志望校を決めればよいでしょう。

志望する学校を選ぶ基準は、人それぞれ違います。基準が1つだけとも限りません。しかし、自分で実際に学校を見たり、自分の将来を考えたりすることで、多角的に判断することが大切です。迷ったら、先生や友だちにアドバイスを求めてもよいでしょう。しかし、最終的には自分で学校を選び、家族に相談しましょう。自分で志望校を決めたからこそ、勉強に対するやる気が出てきます。また、自分で学校を選ぶことこそが、自分自身の人生を歩んでいくことにつながるのではないのでしょうか。

(文 / 学林舎編集部)

クロスロード Crossroad

第 96 回 文／吉田 良治

● スポーツマンシップ・マインド

昨年はスポーツ界で様々な不祥事が発生し、昨年 12 月には超党派のスポーツ議連から文部科学省へ、スポーツ界の健全化を目指す提言“スポーツインテグリティの確保”が提出されました。今年日本ではラグビーワールドカップが開催され、来年はいよいよ東京五輪・パラリンピックが開催されます。スポーツ界の様々な不祥事の改善に向け、国のスポーツ政策の柱はオリンピックのメダルの数より、スポーツ界の健全化が最重要課題になってきました。

スポーツ界で最も根深い問題の一つは指導者の体罰・パワハラ問題です。今年はプロ野球や J リーグ、B リーグといった国内プロスポーツにおいても、指導者の体罰やパワハラの事案が発覚しました。高校野球では毎月不祥事の処分が発表され、多い月には 2 桁を超えることも珍しくありません。その多くは指導者の体罰・パワハラ事案です。スポーツの指導者がまず模範となる存在でなければ、スポーツ界の健全化は成し遂げられません。

今年 6 月に企業の人材育成を手掛ける PHP 研究所から、スポーツコンプライアンス・パワハラ防止の教材“実践！グッドコーチング”が発売されました。スポーツの指導の現場で発生する体罰やパワハラの事例をもとに、“バッドコーチング”にならないためのプレーキ役がこのテキストの役割です。このテキスト作成に際し、私は自身のスポーツ指導者経験から“バッドコーチング”にならないための模範例を提供しました。今後必要になるのは“真のグッドコーチング”のためのアクセルになるプログラムです。キーワードはスポーツマンシップの思考回路を開く！です。日本のスポーツ界ではスポーツマンシップがあまり重要な位

置づけにありません。多くは掛け声で終わっています。真のスポーツマンシップ・マインドを育むためには、まさに“実践”で取り組めるプログラムが必要になります。

神戸製鋼のラグビー部 7 連覇を成し遂げた故平尾誠二さんと、以前お会いする機会がありました。その時平尾さんと日米のスポーツ指導法について意見交換をさせていただきました。その後平尾さんは“日本型思考法ではもう勝てない”という著書を執筆され、その中で私とのやり取りも取り上げていただきました。“日本型”がすべて間違いではなく、守っていくべきものは維持し、変わらなければいけないものは改善していくことが重要です。今までしてきたことを改め、新しいことにチャレンジするためには、それに合った思考回路を開くことが重要です。掛け声で終わってきたスポーツマンシップを当たり前にするためには、フィールドの中はもちろん、日々の生活全体の中で育てていくことが必要となります。重要なことは指導者、選手がともに実践することです。

昨年試合中のタックルが問題になった日本大学アメリカンフットボール部では、チーム再建で取り組んだ中にスポーツマンシップがありました。私は半年間チームをサポートし、監督・コーチと学生がともに取り組めるプログラムを提供しました。半年ですべてが変わるわけではありません。スポーツマンシップの思考回路を開くため、日々思考にインプットとアウトプットを繰り返し、継続して取り組むことが重要になります。

私がお手伝いしたのはあくまでもチームの健全化に向けた環境と機会を提供したにすぎません。プログラムは教育ではなく、自らの意思で実践することにあります。そしてその実践は継続・習慣化されて、はじめて新しい思考回路を開くことができるのです。(つづく)

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出场し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した。ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog <http://ameblo.jp/outside-the-box/>